

編集後記

いずれの臓器癌を対象とするにせよ、まず初めに重要なことは、その癌の肉眼像の全貌というかスペクトラムを把握することである。乳癌なり肺癌なりの診断名がある疾患に対してつけられるにせよ、その名のもとに癌が種々な発育の段階を含めて多彩な様相を示すことは各臓器癌に共通した現象であり、それぞれの分類亜型によって癌の生物学的性質が異なり治療成績や予後に差のあることをわれわれはよく知っている。ここに取り上げられた胃の悪性リンパ腫もその例外ではないであろう。

この特集号では種々な肉眼形態を示す胃の悪性リンパ腫が症例を中心にして紹介されているが、このような取り上げ方は、この病気が胃癌などのようにさほど頻度が高くないので、1つの病院の限られた例だけでは充分になしうることだけでなく、多くの病院から症例をもち寄ってそれを系統的に検討することによってはじめて可能になるわけで、その点この特集号は高い意味と価値をもつものと思う。

胃の悪性リンパ腫にも当然早期のものがあるはずで、本号にもそれに相当すると思われる症例がいくつか取り上げられているが、この問題をより早期のものにつきつめてゆくと、当然いわゆる RLH との鑑別という難しい問題につき当たるわけで、その点はこの特集の第2回以降の号で検討される予定であるが、組織学的方法のみでは自らそこに限度があるであろう。本号では胃の悪性リンパ腫の示すいろいろな肉眼像の特徴を掴んでいただき、胃癌とはどのような点が異なり、どのような点が似ているかを見当づけして載ければ幸いである。

<長与 健夫>

<編集> 早期胃癌研究会